

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100535		
法人名	社会福祉法人光志福祉会		
事業所名	ネムの木グループホーム円座		
所在地	香川県高松市円座町西村94番1		
自己評価作成日	令和3年12月20日	評価結果市町受理日	令和4年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物はGLT工法を採用したスギの木をふんだんに使用しており、木の温もりを感じられ心安らぐ空間を作っている。また、備え付けられたオープンキッチンで3食とも食事を手作りしている。調理を通じて五感をバランスよく刺激することをモットーにしている。ご利用者の方々と一緒にキッチンに立つことで、その方が生き生きと生活できるように心がけている。さらに、手作りのおやつ作りや季節の行事に合わせたイベント・外出など、楽しく生きがいのある毎日を提供している。また、認知症カフェ運営や手作りの品を利用者がコミュニティセンターに届ける等、地域の方々との交流を大切にして穏やかな生活ができる様に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所は幹線道路沿いに立地し、1階は打ち抜きのコンクリートで、グループホームがある2階は木造の温かい作りとなっている。地域には若い人も多く、認知症カフェには子供連れの家族等も参加されている。また、地域のコミュニティセンターに手作りの作品を届けるなど関係づくりに努め認知度も増している。職員は利用者ユニットで協力しながら食事を作るなど、一人ひとりの特性に合わせたケアの実践に努められており、利用者が生き生きとした生活を取る戻すことで、家族等にも安心感や喜びが伝わっている。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス		
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111		
訪問調査日	令和4年2月10日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらい</li> <li>3. 利用者の1/3くらい</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ul>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ul>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ul>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ul>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くいない</li> </ul>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ul>
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営指針書を手に毎日の朝礼を行ない、経営理念や施設方針の唱和・『職員に大切にしてほしい基本姿勢』の音読を通して、意識の共有をしている	毎日の朝礼で経営指針書を手に、事業所理念や施設方針が唱和されている。冊子の中で職員の基本姿勢を音読し、職員は意識を統一して業務に取り組まれている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、夏まつりの開催や地域のボランティアの方々への受け入れはできなかった。認知症カフェを日曜日に開催することで、近隣の子供たちや認知症の方とご家族の参加があった	コロナ禍の影響もあるが、日曜日に認知症カフェを開催し、認知症の方や家族、近隣の子供やその家族の参加がみられる。コミュニティセンター行事の参加も活発で、婦人会や老人会と交流が来ている。自治会には未加入だが、会長が運営推進会議に参加されるなど関係が築かれている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ運営を通じて地域の方々との連携を取りながら、地域との交流を深めている。さらに、認知症に対する理解や支援についてお話できる機会としている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面による開催とした。施設内での開催については、実施できていない	運営推進会議は書面での開催となり、文章の発送による報告となっている。通常の参加者は包括支援センター職員・民生委員・自治会会長・婦人会・家族代表・利用者代表となっている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点・不安な点があればすぐに連絡を取り、相談をしている	包括支援センター職員が運営推進会議に参加して、事業所の現状や活動の様子を共有するなど、顔がみえる関係で日頃から相談できる関係が構築されている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止・身体拘束対策委員会を設置し、マニュアルの作成・定期的な委員会の開催をしている。研修会を年2回実施し、職員間の認識の統一を図っている。玄関の施錠は、安全上行なっている	虐待防止・身体拘束対策委員会を定期的に開催、職員には年2回研修を行い、理解が深められている。玄関は2階でエレベーターや階段のため安全上施錠されている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止・身体拘束対策委員会を設置し、定期的に委員会を開催している。研修会を年2回実施し、職員間の認識の統一を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では不十分である。今後研修会のテーマとして取り上げて、取り組んでいきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分な説明をし、理解・納得していただいた上で、同意を得ている。改定あった場合には、その都度文章を用いて説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との情報共有を密に行い、普段から意見、要望を聞く機会を持つようになっている。頂いた意見、要望については、委員会や部門別会議等に反映させている。各会議での決定事項は、議事録を回覧して職員間で共有している	お便りや写真、ブログなどで情報が発信されている。意見や要望は委員会や部門別会議で検討され反映に繋がられている。決定事項は議事録を回覧するなどして職員に周知されている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月上長との面談を実施しており、問題点も含めて情報の共有をしている。運営に関する意見についても、面談時に集約している	自己目標やサービスの達成度などを毎月、上司と個人面談されている。その場での意見や要望は定例会や上部の会で検討されている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として新しい人事制度を取り入れ、個々の目標に応じた業務ができる様に環境を整え、支援している。その達成度によって評価されることにより、向上心を持って働くことができるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の目標に応じて、様々な支援を行っている。サービス基準書に沿ったケアができる様に、全員が同じ研修を受ける機会を作っている。また、技術については、実技研修を実施し、ランクアップができる様に計画されている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設職員の見学希望には柔軟に応じて、職員同士の交流に努めている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行ない、本人との良好な関係づくりから始めている。現状を把握しつつ、ご本人の希望や考えをお聞きし、想いを汲み取る努力をしている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族との良好な関係づくりを行うように心がけている。ご家族からお話を伺う時間を十分にとり、ご家族の想いを汲み取る努力をしている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望を聞いたうえで入居判定会議やカンファレンスを開催し、ご利用者に必要なサービスは何かを見極め、適切なサービスの提供ができるように努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者が、互いに教え教わりながら家事や物づくりを行なう中で、家庭的な雰囲気を作ることができている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への毎月の便りに添えて、ご利用者の日常の様子のお写真をお送りしている。面会が制限されている中で、できるだけ顔が見られるようにしたり、電話での会話ができる機会を作るなどの工夫を行っている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院の利用、買い物の希望があれば、ご家族と相談して出来る限り実現できるようにしている。感染対策を十分におこなった上で、病院受診に出かけた際には、自宅のある地域を回るなどの工夫を行っている	本人の美容や買い物、受診等は家族の協力 で感染対策を行ったうえで出かけられている。外出の際は自宅近辺や馴染みの場所をまわるなどの工夫もなされている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の関係性を把握し、ご利用者同士が良好なコミュニケーションが図れるように支援している			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族からお便りを頂くなど、交流を大切にしている。退居した後の様子を伺うために、施設から連絡を入れている			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人がその人らしく生活できるように、ご利用者の生活歴を把握し、職員間で情報共有できるようにしている。本人の意向を大切にし、想いを汲み取る努力をしている	利用者の生活歴もタブレットに入力し、職員間で共有されている。本人のささやかな希望も見逃さず、個々に寄り添えるケアが目指されている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に話を聞き、現在までの生活や暮らし方、家族の中や職場での役割など、これまでに歩んできた人生を知るように努めている。また、ものの好みや嗜好を把握するように努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりをご自分のペースで過ごして頂けるように、ご利用者の現在の状態把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が自分の担当するご利用者のモニタリングを行っている。ケアカンファレンスを実施して意見交換しながら計画立案を行っている。ご家族とは面会時や電話連絡する機会を通じて情報の交換を行っている	職員は担当する利用者のモニタリングを毎月行う。カンファレンスで意見交換しながら3ヶ月に1回計画立案されている。家族には面会時や電話により計画についての意見等の確認がなされている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の入力や申し送りの実施により、日々の状態や情報を共有している			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の状況に合わせて、何が必要かその都度話し合いをしている。出来る限り個人に合わせた対応の実現に努めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、職員の研修に「介護保険」に関する内容を取り入れ、基本的な事だけでなく、新しい情報を得ることができる様にしている。得られた情報をご利用者やご家族に伝えることができる様に努力している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望するかかりつけ医の利用を優先的に行なっている。協力病院での受診を希望する場合は、毎月の往診時に情報を共有し、適切に対応ができる様にしている	馴染みのかかりつけ医に入所後も受診できるよう支援がなされている。また家族が受診に付添う事も含めて結びつきが大切にされている。受診が難しくなった場合は、往診できる先への対応もなされている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職種を超えて、報告・連絡・相談をして、適切な対応ができるように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院との情報交換に努めている。退院時のカンファレンスには積極的に参加し、病院関係者との信頼関係を構築するように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応について説明している。又、実際にそのようなことになった場合はご利用者・ご家族の意志を尊重した対応をしている	入所時に重度化した場合に事業所で出来る事等説明がなされている。重度化した場合は、都度本人や家族等と話し合い意向や意思を尊重した対応が行われている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・事故発生時のマニュアルを作成し、各職員が対応できるようにしている。急変時の対応については、実技を取り入れた研修を開催している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を設置し、マニュアルの作成・災害時の避難訓練等を行っている。県下一斉のシェイクアウト訓練にも参加した	デイサービスと共同で防災委員会を開催し、災害対策が行われている。年2回は避難訓練を行い多様な災害に備えられている。事業者は2階で地域の避難所としての利用も考えられている	消防や地域の親子を巻き込んだ防災イベント等も考えられている様子。実際の体験や訓練等を通じて、事業所が地域で果たす役割が広がること、また皆で考える良い場の一つとなる事などに期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の尊厳を守るような言葉のかけ方、対応の仕方に十分注意している	介護技術を標準化することにより、利用者のプライバシー保護や人権の尊重が実現できるよう取組まれている。また、接遇の研修など質の向上に繋がる勉強会等も開催されている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者と密にコミュニケーションを図り、日々の関わりの中で、ご自分の考えや想いを自由に表出できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、ご利用者のペースで過ごしていただけるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には、ご本人の好きなように自由にして頂いている。化粧をする方もいれば、カツラを使用している方もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の出来る範囲で調理・盛り付け・後片づけを行っている	対面式のキッチンなので、職員と利用者が一緒にそれぞれができる事で参加して食事作りがなされている。音や匂いを感じる事で活気にも繋がっている。お誕生日や日曜日等にはおやつ作りも行われている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容については、栄養士が管理しているメニューを提供している。食事量・水分量は、記録し把握できるようにしている。ご本人の好みや体調等に合わせて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。ご本人だけで不十分な場合は、職員が介助している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように声掛けや誘導を行なっている	介護計画にも排泄時間や介助方法を盛り込み、実践に取組まれている。個々に合わせての誘導、センサーマットやポータブルトイレの使用などを一人ひとりに沿ったケアの実施で、オムツやパットの交換等の減少に繋がっている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄・水分摂取量は、都度チェックし記録している。その方に応じた対応で調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は週3回の午前中としているが、ご利用者に合わせて時間や日にちは変更している	基本ひとり週3回は入浴できるよう支援がなされている。入浴の準備から職員が付き添い一緒に着替えを選んだり、本人の好みの湯温や入浴時間に調整したりと入浴が楽しめるよう取組まれている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者それぞれのペースで就寝・臥床・起床して頂いているが、なるべく日中の活動時間を増やし、夜間安眠できるように生活リズムを整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方説明書を個々のファイルで管理し、全職員が把握できるようにしている。与薬時は、ダブルチェックや声出し確認等を徹底し、誤薬防止に努めている。服薬後の空袋チェックを行い、服薬忘れ防止に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・洗濯・掃除等、その方が好きなことや得意なことをして頂いている。その時々体調や気分に合わせて、決して無理強いはいないようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間計画を立て、季節を感じるような催しと外出を行うようにしている。施設周辺の散歩やテラスでの外気浴は、天候や時間帯を考慮しながら随時実施している	月1回は季節を感じる外出ができるよう年間計画を立て実施されている。事業所周辺の散歩は出掛けられる人が少なくなっているため、テラスでの外気浴など代替ケアも随時実施されている	



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望とご家族の理解で、少額の現金を手持ちされているご利用者もいる。近くのコンビニまで出かけ、飲み物とお菓子を買うこともある。「買い物に出かけ、自分で支払いをしたりお釣りの管理をすること」をプランに盛り、計画的に実施しているご利用者もいる			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し、好きな時に連絡を取っている方もいる。そうでない方も、希望があれば、ご家族と電話で直接話すことができるように支援している。季節の便りをご家族に送るよう、支援している			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テラスでは季節の花を育て、ご利用者と共に水やりや手入れを行なっている。室内には、天窓から自然光を取り入れている。共用部分には、ご利用者と職員が共同で作成して、季節を感じることが出来るような飾り付けを行っている	共用空間には日当たりの良いテラスがあり、プランターでお花も栽培されている。居間兼食堂にはオープンキッチンがあり、木材の柔らかな色彩が落ち着いた雰囲気です。天窓から心地よい自然光も入る空間となっている。利用者はそれぞれお気に入りの場所で穏やかに過ごされている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は固定せずに、好きな時に好きな場所に座って頂いている。場面に合わせて机の配置も変えている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の愛着のあるものを自由に持ち込んで頂き、ご本人にとって居心地の良い空間を作っていただいている	木材を使い、自宅のような居室には、番地が表示されている。ベッドと布団・クローゼットが整備され、自宅からは私物や電気製品等持ち込みができる。それぞれ自分の好みの居室が作られている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっている。居室内のベッド・家具の配置は、個々の状況・好みに合わせて配置している			

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
		○	3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営指針書を手に毎日の朝礼を行ない、経営理念や施設方針の唱和・『職員に大切にしてほしい基本姿勢』の音読を通して、意識の共有をしている
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、夏まつりの開催や地域のボランティアの方々の受け入れはできなかった。認知症カフェを日曜日に開催することで、近隣の子供たちや認知症の方とそのご家族の参加があった
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ運営を通じて地域の方々との連携を取りながら、地域との交流を深めている。さらに、認知症に対する理解や支援についてお話できる機会としている
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面による開催とした。施設内での開催については、実施できていない
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点・不安な点があればすぐに連絡を取り、相談をしている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止・身体拘束対策委員会を設置し、マニュアルの作成・定期的な委員会の開催をしている。研修会を年2回実施し、職員間の認識の統一を図っている。玄関の施錠は、安全上行なっている
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止・身体拘束対策委員会を設置し、定期的に委員会を開催している。研修会を年2回実施し、職員間の認識の統一を図っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では不十分である。今後研修会のテーマとして取り上げて、取り組んでいきたい
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分な説明をし、理解・納得していただいた上で、同意を得ている。改定あった場合には、その都度文章を用いて説明を行っている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との情報共有を密に行い、普段から意見、要望を聞く機会を持つようになっている。頂いた意見、要望については、委員会や部門別会議等に反映させている。各会議での決定事項は、議事録を回覧して職員間で共有している
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月上長との面談を実施しており、問題点も含めて情報の共有をしている。運営に関する意見についても、面談時に集約している
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として新しい人事制度を取り入れ、個々の目標に応じた業務ができる様に環境を整え、支援している。その達成度によって評価されることにより、向上心を持って働くことができるようにしている
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の目標に応じて、様々な支援を行っている。サービス基準書に沿ったケアができる様に、全員が同じ研修を受ける機会を作っている。また、技術については、実技研修を実施し、ランクアップができる様に計画されている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設職員の見学希望には柔軟に応じて、職員同士の交流に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行ない、本人との良好な関係づくりから始めている。現状を把握しつつ、ご本人の希望や考えをお聞きし、想いを汲み取る努力をしている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族との良好な関係づくりを行うように心がけている。ご家族からお話を伺う時間を十分にとり、ご家族の想いを汲み取る努力をしている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望を聞いたうえで入居判定会議やカンファレンスを開催し、ご利用者に必要なサービスは何かを見極め、適切なサービスの提供ができるように努めている
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者が、互いに教え教わりながら家事や物づくりを行なう中で、家庭的な雰囲気を作ることができている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への毎月の便りに添えて、ご利用者の日常の様子を写真をお送りしている。面会が制限されている中で、できるだけ顔が見られるようにしたり、電話での会話ができる機会を作るなどの工夫を行っている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院の利用、買い物の希望があれば、ご家族と相談して出来る限り実現できるようにしている。認知症カフェにご利用者の友人が来られた時には、おしゃべりできる機会を提供している
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の関係性を把握し、ご利用者同士が良好なコミュニケーションが図れるように支援している
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族からお便りを頂くなど、交流を大切にしている。退居した後の様子を伺うために、施設から連絡を入れている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人がその人らしく生活できるように、ご利用者の生活歴を大切にし、想いを汲み取る努力をしている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に話を聞き、背景や生活歴だけでなく、好みや嗜好を把握するように努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりがご自分のペースで過ごして頂けるように、ご利用者の状態把握に努めている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が自分の担当するご利用者のモニタリングを行っている。ケアカンファレンスを実施して意見交換している。ご家族とは面会時や電話連絡する機会を通じて情報の交換を行っている
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の入力や申し送りの実施により、日々の状態や情報を共有している
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の状況に合わせて、何が必要かその都度話し合いをしている。出来る限り個人に合わせた対応の実現に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、職員の研修に「介護保険」に関する内容を取り入れ、基本的な事だけでなく、新しい情報を得ることができる様にしている。得られた情報をご利用者やご家族に伝えることができる様に努力している
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望するかかりつけ医の利用をを優先的に行なっている。協力病院での受診を希望する場合は、毎月の往診時に情報を共有し、適切に対応ができる様にしている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職種を超えて、報告・連絡・相談をして、適切な対応ができるように努めている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院との情報交換に努めている。退院時のカンファレンスには積極的に参加し、病院関係者との信頼関係を構築するように努めている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応について説明している。又、実際にそのようなことになった場合はご利用者・ご家族の意志を尊重した対応をしている
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・事故発生時のマニュアルを作成し、各職員が対応できるようにしている。急変時の対応については、実技を取り入れた研修を開催している
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を設置し、マニュアルの作成・災害時の避難訓練等をしている。県下一斉のシェイクアウト訓練にも参加した

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の尊厳を守るような言葉のかけ方、対応の仕方に十分注意している
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者と密にコミュニケーションを図り、日々の関わりの中で、ご自分の考えや想いを自由に表出できるように支援している
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、ご利用者のペースで過ごしていただけるように支援している
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には、ご本人の好きなように自由にして頂いている。入浴後の着替えを選んでもらう時もある
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の出来る範囲で調理・後片づけを行っている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容については、栄養士が管理しているメニューを提供している。食事量・水分量は、記録し把握できるようにしている。ご本人の好みや体調等に合わせて、ご家族からの差し入れや栄養ドリンク等の提供も行っている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。ご本人だけで不十分な場合は、職員が介助している



自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように声掛けや誘導を行なっている
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄・水分摂取量は、都度チェックし記録している。その方に応じた対応で調整している。排便の状況を見ながら、内服の調整を行い排便のリズムを整えるようにしている
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は週3回の午前中としているが、ご利用者に合わせて時間や日にちは変更している
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者それぞれのペースで就寝・起床・起床して頂いているが、なるべく日中の活動時間を増やし、夜間安眠できるように生活リズムを整えている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方説明書を個々のファイルで管理し、全職員が把握できるようにしている。与薬時は、ダブルチェックや声出し確認等を徹底し、誤薬防止に努めている。服薬後の空袋チェックを行い、服薬忘れ防止に努めている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・洗濯・掃除等、その方が好きなことや得意なことをして頂いている。その時々体調や気分に合わせて、決して無理強いはないようにしている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間計画を立て、季節を感じるような催しと外出を行うようにしている。施設周辺の散歩やテラスでの外気浴は、天候や時間帯を考慮しながら随時実施している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望とご家族の理解で、少額の現金を手持ちされているご利用者もいる。散歩のついでに自販機で飲み物を買うこともある。個人の希望に合わせ、スーパーに買い物に出かけ、支払い・お釣りの管理を行うこともある
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご家族と電話で直接話すことができるように支援している。季節の便りをご家族に送るように、支援している
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テラスでは季節の花を育て、ご利用者と共に水やりや手入れを行なっている。室内には、天窓から自然光を取り入れている。共用部分には、ご利用者と職員が共同で作成して、季節を感じる事が出来るような飾り付けを行っている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は固定せずに、好きな時に好きな場所に座って頂いている。場面に合わせて机の配置も変えている
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の愛着のあるものを自由に持ち込んで頂き、ご本人にとって居心地の良い空間を作っていただいている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっている。居室内のベッド・家具の配置は、個々の状況・好みに合わせて配置している